

同窓の皆様、母校見学会と大学祭へ 参加しませんか！

同窓生のご支援・ご協力に感謝の心を込めて計画しました、
是非皆様方のご来校をお待ちしています。

130周年記念合同教育棟（E棟）は、本会報で詳しく紹介しました。E棟は本年3月に完成し、4月から使用が開始され、動物科学科（旧畜産学科）、食品科学科（旧食品工学科）、獣医保健看護学科が移転しました。

また、学生の厚生施設であるクラブ関連施設の武道場をはじめ充実した施設が整備されました。

平成15年の動物医療センターを始めとして、図書館、体育館など次々と竣工し、母校の今日の変貌ぶりには驚かされます。このE棟の完成によって、ほぼ大学としての体裁が整いました。是の機会に母校の発展と武蔵境の街の変わり様を確かめに来てみませんか？

施設の規模が大きくなり、今後大学全体を見学できる機会は少なくなると思われます。そこで、大学・同窓会・学祭実行委員会の協賛で日獣祭期間に同窓生に来て頂く催しを企画致しました。



第45号

平成26年7月15日発行
日本獣医生命科学大学
同窓会
東京都武蔵野市
境南町1-7-1
発行者 中條 真二郎
直通電話・FAX
0422-33-2916
E-mail dosokai@nvlu.ac.jp

母校見学会

期日：平成26年11月2日（日） 大学祭当日
見学：合同教育棟とクラブ関連施設をはじめ、
動物医療センターなど
大学祭：研究室の研究成果紹介、クラブ関連の
成果発表
好評のドッグショー、武道関係の演舞
会が行われます。
同窓会ブース：E棟一階に休憩室を用意します。
この機会に研究室、クラブのOB会等を計画
されてはいかがでしょうか。是非お誘い合わせ
の上ご来校してください。

柔道部、剣道部、空手部の道場開き

三部のOB会により道場開きが開催されます。

式典・懇親会

平成26年10月11日（土） 午後3時～

集合場所：武道場

詳細については各クラブOB会から案内を差し
上げます。



次世代に繋げる新たな挑戦を期待

日本獣医生命科学大学同窓会会長

中 條 眞二郎



同窓会会員の皆さま、ますますご健勝にお過ごしのこととお喜び申し上げます。平成26年度早々、消費税の増税、T P P の妥結がささやかれ、農業・畜産関係に従事されている同窓生のご苦労はいかばかりかと思つと、励ましの言葉もみつきりません。この時勢を乗り切るには、強い気持ちを持って頑張つて下さい。

同窓会の平成26年度事業は、基幹事業の遂行と当該年度に限った事業として以下の事業を考えております。

- 一、合同教育棟の見学会
- 一、同窓会員名簿の発行
- 一、同窓会報45号の7月15日発行

130周年記念事業の合同教育棟は、多くの会員からのご寄付を頂き本年3月に完成し、学校法人日本医科大学の主催で竣工式と祝賀会が催されました。

待望の獣医保健看護学科の教育環境施設は、他学科と同等な教育・研究を行える施設の確保が図られました。

昭和44年から第二校舎に在った応用生命科学部の食品科学科は、懸案であった同じ学部の動物科学科と合同教育棟に移転することができました。これにより、学部の間滑な運営と共に教育・研究の整備がされ、一層の成果が上がることを期待されます。

合同教育棟には、日本医科大学の基礎科学

課程が川崎の新丸子から移転してきました。同一キャンパス内で二大学の教学が4月から始まりましたが、両大学にとって相加でなく相乗作用に働くものと今後が非常に楽しみであります。

また、本館は主に事務関係の施設でしたが、合同教育棟に大学の運営に係わる事務部、学長室などが移転します。

度々お知らせしていましたが、地下部には、素晴らしい学生の福利厚生施設ができあがりました。クラブ関連施設は武道場、卓球場、ダンスフロア、フットサル等も行える多目的用途施設で、日医大生と共用する施設です。

この合同教育棟の事業にクラブ関連施設の新設が計画されたことから、学生会体育会関係会員に130周年記念事業の寄付を応援して頂ければと、体育会会長のOBの方に募金の発起人をお願いして快諾を頂きました。

多くの方々の支援・協力で大変立派な学生福利厚生施設の完成をみました。この機会に、合同教育棟と武道場を含めたクラブ施設などの見学会を催す計画をしております。この見学会は、関係クラブOBに限らず全同窓生が対象となりますから、その節は是非とも母校に足を運んで下さい。

同窓会から会員の皆様に情報を提供することは、同窓会として大事な責務であると考え、数年前からウエブサイト(ホームページ)

ジ)を開設し伝達媒体として、多に活用して参りました。しかし、先般同窓会ウエブサイトに突然トラブルが発生し現在利用できません。ウエブサイトの情報の豊富さ、伝達の速さは目を見張るものがあり、情報提供の手段としての役割はとて有効でした。今後、ウエブサイトの扱いをどうするか、トラブルが発生しない安全なシステムを構築している業者との契約を検討中であります。

毎年、会員に送付しております会報は、作成・発送など手間がかかりますが、情報の伝達方法としてウエブサイトとは異なった良さがありません。本年度は試行として同窓会会報を2回発行する予定です。来年度からは、年2回の発行が継続可能か予算面、編集作業の負担などを検討することになりました。

2010年、同窓会員名簿を送付先が明確な同窓生全員にお届けしました。

名簿は、従来4年毎に作成し同窓会費の納入者に限って届けてきました。130周年記念号の名簿については全会員にお送りし大変好評でありました。そこで、本年度も前回と同様会費納入者と限定しないで皆様のお手元にお届けする予定です。

同窓会の大きな使命は、個人情報保護規定を遵守した名簿管理に努め、正しい会員名簿を把握することにあります。会員の皆様には正確な名簿作成に協力お願い致します。氏名・住所などの変更は、個人の申告によります。変更等がありましたら、早急に同窓会本部事務局へお届け下さい。

日本獣医生命科学大学付属動物医療センターと同窓生開業獣医師の「連携病院制度」の実施要項は、会報第44号に詳細に紹介しま

した。同時にウエブサイトに掲載していたのですが、前記しましたようにウエブサイトを見ることができなくなっております。

小動物臨床獣医師の同窓生から、母校の臨床センターの門戸をもっと開いて欲しい等の要望がありました。そこで、同窓会から母校の臨床の先生方に個人病院の実情に理解を示して頂きたいとお願いし、本制度の運びになりました。

連携動物病院制度の目的は、個人開業病院と母校の動物医療センターが相互に連携し、効率的で安心して受けられる獣医療環境の構築に務め、動物医療の充実・発展に寄与することを目的として本制度を設けました。

連携制度は、医学、歯学系大学が、開業医と連携制度を結び、相互に益を得て大変好評のようです。獣医の開業病院も医系と同様、畜主さんが病院を選ぶ時代となり、高度医療に対応した病院が競争時代を生き残る手段かも知れません。

本制度は、お互いに医療向上を図れることと同時に、現在の開業医の経営面にもプラスに働くものと思っております。

連携動物病院制度の実施概要

連携内容・患者紹介及び医療相談

逆紹介の案内

研修会や講演会等の案内等

申し込み方法・申請書を同窓会本部へ郵送

申し込み・問い合わせ先・〒180-8600

2 武蔵野市境南町1-7-1

日本獣医生命科学大学同窓会事務局

月々金 午前10時～午後4時 TEL &

FAX 0422-33-2916

平成二十六年 度 同窓会理事会・ 監事会および代議員会を開催

平成26年度の理事・監事会、代議員会が平成26年7月20日(日曜日)に、母校において開催されます。同窓会会則に基づき各支部から選出された今年度の代議員には、すでに議案書を送付しております。

なお、同窓会のより良い発展を願ひ、会則による会費納入会員数が代議員選出条件を満たしていない支部には、支部代表の参加を要請しました。

当日は、午前中に理事・監事会、午後から代議員会を開催します。代議員会の終了後に懇親会を開催の予定です。

宮城県支部からの便り

事務局 川村

宮城県支部も昨年創立65年(創立昭和23年晩秋)を迎え、これまで幾多の諸先輩が築かれてきた伝統と歴史に、更に地道な積み重ねを果たしていかねばならないと、支部会員一同、同じ学舎に学んだ郷愁を胸に刻み、「同窓の灯火」を大切に日々暮らしております。

さて、宮城県支部は、昨年開催されました総会におきまして、永きに亘り、支部長を務められました、大岩隆先生(大学3期)が後進に道を譲られ、新生宮城支部が誕生しました。新たな支部長に、佐々木良悦先生(大学

10期)が就任されました。

大岩先生は、県庁退職後民間機関に務められ、この間支部長を7期21年努められ、また、本部評議員・理事職などを歴任されました。特に、平成19年10月7日仙台市で開催されました、「第23回学術交流会」では、東北北海道地区大会会長として、その企画・運営に精力的に取り組みされました。交流会会場は仙台市内でも特に有名な会場でしたが、手腕を振るわれ会場確保に奔走されました。地方での開催として東北北海道地区では初めての開催でしたが、大会会長としての責任を見事に果たした交流会でした。偏に大岩先生の尽力に改めて感謝を申し上げます。

また、大岩先生と共に、事務局を担当されました、高橋勝一先生(大学19期)も、事務局長として、約20年大任を果たされました。本日に宮城県支部の運営に多大なる貢献を果たされた大岩先生共々、会員一同深く感謝を申し上げます。

宮城県支部も、新体制となりました。また、平成23年3月11日に発生した、「東日本大震災」では、全国から多くの支援を賜りました。今後の復興・復旧が県民の大きな課題です。このような状況で、同窓会の方向性・同窓生の交流を更に「絆」として、これまで以上に深めていくことが大切であると考えております。同時に、全国関係各方面の同窓生の方々達との交流も深めて行きたいと思っておりますので、今後とも、よろしくご指導をお願い申し上げます。

16期会だより 毎年全国持ち回りで同期会を開催

大学16期生 田所 喬樹

私達が入学したのは昭和39年東京オリンピックが開催された年でした。

東海道新幹線が開業し、経済が高度成長に入る時期でした。しかし、3畳一間の下宿で自炊をして通学をする学生も多い時代でした。それでも、そのうす暗い下宿の部屋で将来の夢を熱く語り明かす日々でした。そんな多感な青春時代を武蔵野で過ごせたことを嬉しく思っています。そして、昭和43年3月希望に胸膨らませて卒業し、全国各地に散って行きました。

私達の会の名称は大学16期の卒業なのでそれに因んで「16期会」と称しています。16期会は折にふれて東京で開催していましたが、平成20年東京・吉祥寺での開催時に来年は沖縄県でと云うことになりました。沖縄在住の同期生にお世話になり、沖縄の美しい海を見、沖縄料理に舌鼓を打ち、ひめゆりの塔に献花をし、意義ある第1回の地方巡業(?)は大成功でした。以後は地方持ち回り、幹事は開催県の同期生が担当、2泊程度で日本全国で開催することになりました。出席者は毎回30名前後で、夫婦同伴の出席も4、5組見受けられます。

平成22年は群馬県・妙義の紅葉が美しく、平成23年は北海道・北の大地の広がったこと。平成24年は大阪府・さすが食い倒れ料理が美味く、奈良、京都の神社仏閣は荘厳だ

った。平成25年は高知県・南国高知は龍馬一色、清流四万十川の静寂。そして、今年(平成26年)は東京で開催予定です、新しい東京が見られると思うとわくわくします。また、久しぶりに母校も見せていただこうと思っております。因みに来年(平成27年)は山梨県です、母校の富士アニマルファーム(富士河口湖町)の宿泊研修施設を利用していただければありがたいのですが、。ともあれ、16期会は元気にそして楽しくやっております。

おわりに日本獣医生命科学大学同窓会が益々発展されますことを祈念します。



事務局だより

今年3月に母校A棟、B棟に隣接し、母校創立130周年記念事業の合同教育棟（E棟）が竣工しました。ハード面で更なる充実した母校の近況を早く知らせるべく、同窓会報45号を7月に発行することになった。なお、今号は12月に発行を予定している会員名簿の住所確認のため、全会員へ直接送付としました。次号（平成27年1月発行予定）の配布方法は従来通りに戻ります。

今年度は会員名簿発行を12月に予定

4年に一度の会員名簿発行を今年12月に予定しています。この会報が届けられた住所が、同窓会本部に登録されています。

配布物などが返却される理由に、市町村合併などによる郵便番号、市町村名、番地の変更などが多数見受けられます。本部としては極力郵便会社からの情報を得て、調査しますが、住所の名称変更などがあった場合は新住所を速やかにお知らせください。

また、最近卒業された多くの会員が、学生時代の保護者の住所のままになっています。新住所を速やかに本部へ提出してください。各種変更届は、ファックス、電子メール、郵送でお願いします。

現在、名簿は本部のパソコンで管理していますが、使用ソフトの欠点でまったく異なる氏名や住所が表示される間違いが生じる事故が発生しました。ご迷惑をおかけしましたこととお詫びし、今後十分に留意し、管理いたします。

■支部会、同期会開催などの報告を募集しています。報告文に集合・スナップ写真などを添付して電子メールで投稿してください。極力掲載いたしますが、紙面編集の都合で掲載できない場合もありますので予め了承ください。

次に該当される方は本部へご連絡ください

他大学で博士号、修士の学位を授与された方。国会議員、市町村長、県議会議員等に出・再選された方。叙勲を授与された方、ご逝去された方など。情報提供者を特定できるよう電話以外にてご連絡下さい。

連携動物病院申請について

申請から登録までは、同窓会事務局が窓口となります。

- 1 同窓会事務局へ申請用紙の請求をする。
- 2 同窓会より申請書を受け取る。
- 3 申請書に記載漏れの無いよう確認し、申請書を同窓会事務局へ送付する。（ファックス、メール添付では不可）
- 4 事務局で資格を審査後、連携施設票、紹介フォーム等を送付する。
- 5 会員からの経費振り込み確認後、動物医療センターへ登録される。
- 6 登録後は動物医療センターが窓口となる。

母校近状

教員人事

庶務課

（平成25年12月から平成26年5月20日まで）

○新任（平成26年4月1日付）

助教

神野 信夫（臨床獣医学部門治療学分野II）

田村 恭一（臨床獣医学部門治療学分野I）

塩川 舞（獣医保健看護学基礎部門）

小田 民美（獣医保健看護学臨床部門）

小柳 円（動物生体防御学）

○新任（平成26年5月1日付）

助手

鈴木 周二（付属動物医療センター）

○再任（平成26年5月1日付）

特任教授

山田 裕（獣医学部）

○昇任（平成26年4月1日付）

教授

横須賀 誠（病態獣医学部門病態解析学分野）

小林真理子（獣医保健看護学応用部門）

准教授

佐々木典康（基礎獣医学部門形態機能学分野）

長谷川大輔（臨床獣医学部門治療学分野I）

原田 恭治（臨床獣医学部門治療学分野II）

山本 一郎（基礎獣医学部門形態機能学分野）

松原 孝子（獣医保健看護学臨床部門）

講師

中田 友明（病態獣医学部門病態解析学分野）

宮川 優一（臨床獣医学部門治療学分野I）

森 昭博（獣医保健看護学臨床部門）

○退職（平成26年3月31日付）

助教

越智 広樹（獣医微生物学）

○任期満了（平成26年3月31日付）

特任教授

今井 壯一（獣医学部）

○解く（平成26年3月31日付）

准教授（嘱託）

西谷 次郎（システム経営学）

○定年退職（平成26年3月31日付）

教授

斎藤 徹（比較動物医学）

湯本 典夫（獣医保健看護学応用部門）

○名誉教授の称号授与（平成26年4月1日付）

前日本獣医生命科学大学 教授

斎藤 徹

学位(博士)取得者

大学院課

学位(修士)取得者一覧 (平成25年11月～平成26年5月)

【応用生命科学専攻 博士前期課程】

学位記番号	氏名	学位授与年月日	所属教室
修応第52号	井上 航	平成26年3月13日	食品機能化学
修応第53号	内田 貴大	平成26年3月13日	乳肉利用学
修応第54号	小淵 智子	平成26年3月13日	システム経営学
修応第55号	君塚 万里恵	平成26年3月13日	動物生産化学
修応第56号	國分 由希	平成26年3月13日	食品機能化学
修応第57号	後藤 真吾	平成26年3月13日	食品機能化学
修応第58号	佐々木 友理恵	平成26年3月13日	食品工学
修応第59号	長尾 暁	平成26年3月13日	食品機能化学
修応第60号	長谷川 悦子	平成26年3月13日	動物生産化学
修応第61号	望月 優	平成26年3月13日	実験動物学

【獣医保健看護学専攻 博士前期課程】

学位記番号	氏名	学位授与年月日	所属教室
修看第29号	石井 奈緒美	平成26年3月13日	獣医保健看護学応用部門
修看第30号	上田 香織	平成26年3月13日	獣医保健看護学臨床部門
修看第31号	小野沢 栄里	平成26年3月13日	獣医保健看護学臨床部門
修看第32号	小林 羽	平成26年3月13日	獣医保健看護学基礎部門
修看第33号	堀内 太郎	平成26年3月13日	獣医保健看護学基礎部門
修看第34号	丸山 夏輝	平成26年3月13日	獣医保健看護学臨床部門

他大学での学位取得 [2001.01.17(2014.2.17 同窓会受付)]

飯島 治 (獣医28期) 医学博士 東京医科大学 (薬理学講座)

学位(博士)取得者一覧 (平成25年11月～平成26年5月)

【獣医学専攻 博士課程】

学位記番号	氏名	学位授与年月日	所属教室
博獣甲第158号	赤木 浩之	平成26年3月13日	獣医外科学
博獣甲第159号	浅野 潤三	平成26年3月13日	比較動物医学
博獣甲第160号	伊藤 慶太	平成26年3月13日	獣医臨床病理学
博獣甲第161号	岩田 宗峻	平成26年3月13日	獣医外科学
博獣甲第162号	鈴木 亮平	平成26年3月13日	獣医内科学
博獣甲第163号	富永 芳昇	平成26年3月13日	獣医内科学第二
博獣甲第164号	加藤 雅裕	平成26年3月13日	比較動物医学
博獣甲第165号	李 格實	平成26年5月23日	獣医生化学
博獣乙第316号	高橋 文人	平成25年11月22日	生体分子化学
博獣乙第317号	保田 大治	平成26年3月13日	獣医放射線学
博獣乙第318号	牧野 ゆき	平成26年5月23日	獣医生化学

【獣医保健看護学専攻 博士後期課程】

学位記番号	氏名	学位授与年月日	所属教室
博看甲第1号	小田 氏美	平成26年3月13日	獣医保健看護学臨床部門
博看甲第2号	佐伯 香織	平成26年3月13日	獣医保健看護学臨床部門

【応用生命科学学専攻 博士後期課程】

学位記番号	氏名	学位授与年月日	所属教室
博応乙第2号	中村 幸信	平成26年5月23日	食品化学

平成25年度梅野信吉賞受賞者決定

選考委員長 獣医保健看護学科教授

近江 俊徳

梅野信吉賞(日本獣医生命科学大学学術賞)は、顕著な研究業績をあげ本学の荣誉に貢献した教員(ポストドクターを含む、ただし教授は除く)を顕彰する制度である。

今年度は、3名の応募者があり2学部4学科(付属動物医療センター含む)の教授15名で構成される当該選考委員により受賞者の選考を行った。選考基準に沿って厳格に選考した結果、国際的な学術誌において関連研究が多数公表され高い評価を受けている、獣医学科獣医病理学教室(現在の病態病理学部門病態解析学分野)の道下正貴講師に決定した。

道下正貴講師は、平成12年3月に日本獣医畜産大学獣医学科を卒業後、東京大学農学生命科学研究科獣医学専攻に進学され平成16年3月同大学院にて博士(獣医学)を取得し、ポストドクターとして2年間国立がんセンター1研究所の市川仁博士のもとでヒト急性骨髄性白血病のがん幹細胞に関する研究に従事された。その後、平成18年4月に本学獣医病理学教室の助手、翌年同月助教(学校教育法改正による)、平成24年4月に講師に昇任され、この間これまで培ってきた最新の技術をいち早く獣医学分野に導入し現在も勢力的に研究を行ってきた。

梅野信吉賞のテーマは「犬および猫のがん幹細胞標的療法に関する基礎的研究」であった。研究の概要は以下の通りである。

「研究概要」

近年、正常組織幹細胞の研究が進展する中で、乳がん等の固形がんにおいてもがんの根源となる「がん幹細胞」の存在が報告され、正常の幹細胞システムに類似した分化階層システムを構築することが提唱されている。本研究では極めて病態進行が早く、効果的な治療がない犬および猫の難治性がんである、乳がん、肝細胞がん、骨肉腫、横紋筋肉腫などを対象とし、それらの難治性がんの根絶に向けて、がん幹細胞の同定・特性解析およびそれらを指標とした分子標的薬の探索・同定を行い、獣医療におけるがん幹細胞標的療法の基盤を形成した。

梅野信吉賞の受賞式は、平成26年4月4日本学アリーナで挙行された入学式の中で行われ、池本学長から賞状および副賞(同窓会贈呈)が贈られた。また、本研究内容は本年度の日本獣医生命科学大学学術交流会において披露される予定である。



平成26年度入試結果

教務・学生課

平成26年度は昨年度より18歳人口が約4%近く減少する厳しい状況のなか、本学では平成26年度入学試験において、昨年度より志願者数を500名近く伸ばす結果となり、非常に善戦した。

その原因として、今年度入試より一般入学試験(第2回)において獣医学科を除く3学科間の併願を導入したことが一つの要因である。また、来年度入試から新教育課程履修者の大学入学選抜が開始されるのに伴い、旧教育課程履修者の駆け込み需要(複数大学併願受験)もあつたのではないかと想定される。

しかし、本学を含む高等教育機関を取り巻く環境は依然厳しく、今年度入試の志願者数増加に甘んずることなく今後も状況を精査し、来年度以降も大学教職員として同窓生が一丸となって、質の良い学生の確保に努めることが必要である。

今年度の入試では獣医学科の編入学試験(学士)(入学年次は2年次)を廃止し、特別選抜入学試験(学士)(入学年次は1年次)を、獣医学科を除く3学科においては、一般入学試験(第2回)における併願を導入した。また、志願者サービスの向上を目的に入学検定料の支払いを従来の金融機関窓口(郵便局を除く)だけでなく、Webでのクレジットカードカード利用及びコンビニエンスストアでの払い込みも可能とした。

平成27年度入学試験では、日本社会の国際化に対応し卒業後活躍が期待される語学力の

高い学生確保に向け、特別選抜入学試験(帰国子女)の枠と並列する形で、国際バカロレア資格(以下IB)を有した志願者の受験を可能とした特別選抜入学試験(IB取得者)を導入する。

平成26年度入学試験結果

学部	学科	試験区分	志願者数		受験者数		合格者数		倍率		
			H26	H25	H26	H25	H26	H25	H26	H25	
獣医学部	獣医学科	[推薦] 一般公募推薦	90	90	87	88	24	24	3.63	3.67	
		[特別選抜] 社会人	8	4	8	4	1	0	8.00	—	
		帰国子女	1	4	1	4	0	1	—	4.00	
		獣医師後継者育成及び地域獣医療支援	14	12	14	12	5	5	2.80	2.40	
		学士	17	30	17	30	2	3	8.50	10.00	
	センター試験利用入試			737	639	736	636	31	34	23.74	18.71
	一般入学試験(第1回)			1,188	1,103	1,186	1,098	115	104	10.31	10.56
	一般入学試験(第2回)			510	469	467	413	24	25	19.46	16.52
	合計			2565	2351	2516	2285	202	196	—	—
	学部合計			3412	3091	3350	3017	433	408	—	—
獣医保健看護学科	[推薦] 一般公募推薦	69	79	69	79	28	28	2.46	2.82		
	[特別選抜] 帰国子女	1	0	1	0	1	0	1.00	—		
	センター試験利用入試	255	212	255	212	61	54	4.18	3.93		
	一般入学試験(第1回)	426	389	421	385	129	119	3.26	3.24		
	一般入学試験(第2回)	96	60	88	56	12	11	7.33	5.09		
合計			847	740	834	732	231	212	—	—	
動物科学部	[推薦] 一般公募推薦	29	27	29	27	25	25	1.16	1.08		
	指定校推薦	5	1	5	1	5	1	1.00	1.00		
	センター試験利用入試	304	174	303	174	41	41	7.39	4.24		
	一般入学試験(第1回)	383	433	377	424	155	157	2.43	2.70		
	一般入学試験(第2回)	121	108	106	99	36	6	2.94	16.50		
合計			842	743	820	725	262	230	—	—	
応用生命科学部	[推薦] 一般公募推薦	26	29	26	29	16	14	1.63	2.07		
	指定校推薦	22	17	22	17	22	17	1.00	1.00		
	センター試験利用入試(第1回)	169	133	169	133	15	18	11.27	7.39		
	センター試験利用入試(第2回)	5	6	5	6	2	1	2.50	6.00		
	一般入学試験(第1回)	295	276	288	266	93	113	3.10	2.35		
	一般入学試験(第2回)	70	59	60	51	23	6	2.61	8.50		
	[編入学] 編入学	2	1	2	1	2	0	1.00	—		
合計			590	522	573	504	174	170	—	—	
学部合計			1432	1265	1393	1229	436	400	—	—	
総合計			4844	4356	4743	4246	869	808	—	—	

平成26年度入学者数	
獣医学科	96名
獣医保健看護学科	103名
動物科学部	101名
食品科学部	88名
合計	388名

※ 編入学・編入学(学士)を除く

平成26年度地区別入学者数

学部	学科	地区	入学者数	合計
獣医学部	獣医学科	北海道	1	96
		東北	4	
		関東甲信越	67	
		北陸	0	
		東海	2	
	近畿	7		
	中国	2		
	四国	2		
	九州・沖縄	7		
	その他	4		
獣医保健看護学科	北海道	1	103	
	東北	3		
	関東甲信越	80		
	北陸	0		
	東海	3		
動物科学部	動物科学部	北海道	1	101
		東北	1	
		関東甲信越	89	
		北陸	0	
		東海	3	
	近畿	3		
	中国	2		
	四国	2		
	九州・沖縄	0		
	その他	0		
食品科学部	食品科学部	北海道	0	88
		東北	1	
		関東甲信越	81	
		北陸	0	
		東海	3	
近畿	0			
中国	1			
四国	1			
九州・沖縄	0			
その他	1			

平成25年度学位記授与式

学生支援課

平成26年3月13日(木)午前10時から、日本獣医生命科学大学「平成25年度学位記授与式」がアリーナ(体育館)において午前中に学部、午後に大学院の授与式がそれぞれ挙行された。

午前中の学部学位記授与式は、学校法人日本医科大学、母校名誉教授、同窓会、父母会、亜細亜大学学長、獣医師会などから30余名の来賓を招き執り行われた。

獣医学科84名、獣医保健看護学科92名、動物



学長式辞

物科学科85名、食品科学科88名の合計349名に学位記が手渡された。引き続き学長式辞、来賓祝辞のあと、教員免許、人工授精修了書、学長賞、獣医師会褒賞、同窓会長賞の授与があった。同窓会、父母会の記念品贈呈、卒業生代表挨拶のあと学歌斉唱後閉会となった。

午後からの大学院学位記授与式では、獣医学専攻博士課程修了者及び論文審査合格者10名、獣医保健看護学専攻博士前期課程修了者及び博士後期課程修了者8名、応用生命科学専攻博士前期課程修了者10名の合計28名に学位記が手渡された。



赫理事長祝辞



卒業生挨拶

第65回獣医師国家試験の本学結果

獣医学科長 高橋 公正

第65回獣医師国家試験は平成26年2月18、19日に実施され、その合否結果が3月14日に公表された。今年の受験者総数は1,237人で、合格者数は1,011人(81・7%)であり、その内訳は新卒が922人(90・2%)、既卒84人(40・4%)であった。昨年の合格率(全体81・8%、新卒90・4%、既卒34・0%)と比較してもほぼ同様の結果であった。過去5年間の合格率を振り返ると、既卒は34・53%と年度により変動がみられるが、新卒は90・91%とほぼ一定している。年度ごとの受験者のレベル、出題内容の難易度の違いを考慮すると、合格ボーダーラインを上下しない限り合格率を一定に保つのは難しいのではと思ってしまう。しかし実際は合否ボーダーラインは常に60%に設定され、新卒の平均合格率は90・91%と毎年不動であるのは驚きである。

大学別の合格率は表の通りであった。本学は新卒受験者数77人中、合格者数67人(87・0%)であり、既卒受験者数11人中、4人(36・3%)が合格であった。新卒、既卒とも今回は全国平均を下回った。これは全国獣医系17大学中13位、私立5大学中3位で、本学としては近年にない不振であった。合格率では本学はここ4年間、61回98・9%、62回90・5%、63回98・9%、64回94・3%と常に全国平均を上回ってきただけに残念な結果である。新卒合格率では北大が100%で最も良い成績であった。

獣医師国家試験の結果(大学別)

区分	大学名	第65回		
		受験者数	合格者数	受験者数
新卒者	北海道大学	41	41	42
	帯広畜産大学	36	33	34
	岩手大学	34	30	35
	東京大学	31	28	29
	東京農工大学	38	34	40
	岐阜大学	34	31	32
	鳥取大学	36	35	33
	山口大学	33	27	33
	宮崎大学	32	29	30
	鹿児島大学	30	28	35
	大阪府立大学	45	41	45
	酪農学園大学	125	121	141
	北里大学	139	119	144
	日本獣医生命科学大学	77	67	88
	日本大学	140	127	144
	麻布大学	151	131	153
新卒者数計	1,022	922	1,058	
既卒者	208	84	40.4%	
受験資格認定者	7	5	71.4%	
予備試験合格者	-	-	-	
合計	1,237	1,011	81.7%	

今回私大で一番合格率の良かった酪農学園大(96・8%)では、国試対策として卒論提出時期を早め、グループ勉強を奨励したと聞いている。そもそもこの「グループ勉強」は大学の伝統であり、その充実した取り組みがこれまでの好成績を支えてきたと言っても過言ではない。本学では最近はこの勉強法が形骸化しているような気がしてならない。成績の良い学生が周りを引っ張り、得意する分野を周りに伝えてグループ全体のレベルアップを計るのがこの勉強法の長所である。我々教員は今回の結果を真摯に受け止め、分析をしっかり行い、新たな対策を練ることは不可欠であるが、学生も本来の「グループ勉強」のあり方をもう一度考えて頂きたい。来年こそ、ご期待に添えるよう教員一丸となって邁進したい。

平成25年度卒業生就職状況

キャリア支援センター 清水 謙一

この7月にキャリア支援センターは設立満3年を迎えました。お陰様で学生達にもその存在が浸透し、通称「キャリアセン」を訪れる学生の数も日に日に増えています。さて、昨年度卒業生の学科別の就職状況ですが、獣医学科100%、獣医保健看護学科96・2%、動物科学科95・9%、食品科学科97・3%と全体的に昨年を上回る高い就職(内定)率を確保でき、文部科学省発表の大学就職率(94・4%)を大きく上回りました。学科別の内訳ですが、就職希望者全員が就職できた獣医学科では、本学の最大の特徴でもある小動物獣医師に68・8%が進み、近年で最も高い比率になっています。また、公務員獣医師

13・1%、NOSA Iなどの産業動物獣医師11・5%となりました。獣医保健看護学科では就職者のうち、動物病院看護師が40・8%と昨年より8%程減少した分、動物に関わる教育関連機関、公務員・教師の道を選んだ学生が31・6%と高い割合を示しました。また、ペット・医療関連での新しい就職先を開拓してくれた年でもありました。動物科学科では就職者のうち、動物関連の飼料・食品、医薬品等の製造業が30・0%と人気が高くなっています。昨年は大切な畜産業にも後継者の就職もあり比率が持ち直し10・0%が就職しました。学科特徴が活かされている動物実験・治験検査関連業界でも17・1%と高い比率を示しています。食品科学科では食品製造業志向が続いています。今年には就職者のうち43・1%と低下傾向にあった製造業比率が回復し明るい陽射しが見えました。また食品流通業の商社・卸、外食産業などのフードサービス関連が25・0%、今年には検査分析・衛生サービス業に就く比率が下がりました。景気の回復基調を背景に、各々の学科とも本学の学びの特徴を発揮できた就職実績を収められました。また、この7月11日には獣医学科OBで現在帝人ファーマ(株)代表取締役社長の宇野洋氏をお招きし「特別就職ガイダンス」を開催します。今後とも、キャリア支援センターにご指導・ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

平成25年度学生表彰

学生支援課

学長賞、公益社団法人日本獣医師会褒賞、同窓会長賞は最終学年を対象として選出され、武蔵野賞は各学年から選出される。また、樺賞は課外活動等において優れた成果を取った団体に贈られる。授与は最終学年は学位記授与式にて表彰され、在学生は入学式にて表彰された。

平成25年度学生表彰
学長賞他受賞者

表彰種別	学科	学年	氏名
代表者種別	学科	学年	氏名
学長賞	獣医学科	6年	戸上 絵理
学長賞	獣医保健看護学科	4年	青木 幸奈
学長賞	動物科学科	4年	田島 広大
学長賞	食品科学科	4年	宮本 友香
社)日本獣医師会褒章	獣医学科	6年	竹下 恭平
同窓会長賞	獣医学科	6年	三河 翔馬
同窓会長賞	獣医保健看護学科	4年	石田 美保
同窓会長賞	動物科学科	4年	根本 真有
同窓会長賞	食品科学科	4年	白倉 敏子

武蔵野賞	獣医学科	6年	古山 裕樹	武蔵野賞	獣医学科	2年	伏居 南美
武蔵野賞	獣医学科	6年	萩原 文乃	武蔵野賞	獣医学科	2年	柴 舞華
武蔵野賞	獣医保健看護学科	2年	武井 和泰	武蔵野賞	獣医学科	2年	永島 さよ
武蔵野賞	獣医保健看護学科	2年	砂田 瞳	武蔵野賞	獣医学科	3年	田中 菜都子
武蔵野賞	獣医保健看護学科	2年	川本 好栄	武蔵野賞	獣医学科	3年	佐藤 貴
武蔵野賞	獣医保健看護学科	3年	近藤 真由香	武蔵野賞	獣医学科	3年	紺谷 早紀
武蔵野賞	獣医保健看護学科	3年	松永 惟	武蔵野賞	獣医学科	4年	藤原 万里子
武蔵野賞	獣医保健看護学科	3年	梅津 萌子	武蔵野賞	獣医学科	4年	奈良橋 里美
武蔵野賞	獣医保健看護学科	4年	杉浦 奈都子	武蔵野賞	獣医学科	4年	石川 涼子
武蔵野賞	獣医保健看護学科	4年	池田 美奈子	武蔵野賞	獣医学科	5年	林 麻央
武蔵野賞	獣医保健看護学科	4年	松本 みのり	武蔵野賞	獣医学科	5年	榊 基
武蔵野賞	動物科学科	2年	沖 裕一朗	武蔵野賞	獣医学科	5年	木原 友子
武蔵野賞	動物科学科	2年	大木 妙子	武蔵野賞	獣医学科	6年	羽原 誠

武蔵野賞	食品科学科	4年	高久 未樹
武蔵野賞	食品科学科	4年	松本 莉沙
武蔵野賞	食品科学科	4年	糸井 和奈
櫻賞	馬術部	部長	酒井 敦弘

櫻賞	馬術部	部長	酒井 敦弘
----	-----	----	-------

武蔵野賞	動物科学科	2年	白川 静
武蔵野賞	動物科学科	3年	高橋 菜摘
武蔵野賞	動物科学科	3年	沼田 歩美
武蔵野賞	動物科学科	3年	鈴木 晶乃
武蔵野賞	動物科学科	4年	安田 紗紀恵
武蔵野賞	動物科学科	4年	金子 一規
武蔵野賞	動物科学科	4年	今田 健斗
武蔵野賞	食品科学科	2年	菅野 究
武蔵野賞	食品科学科	2年	樋渡 美帆
武蔵野賞	食品科学科	2年	岡田 彩加
武蔵野賞	食品科学科	3年	川島 彩
武蔵野賞	食品科学科	3年	徳村 友里子
武蔵野賞	食品科学科	3年	佐伯 由真



池本学長式辞



← 中條会長祝辞



その後、同窓会から記念品が贈呈された。引き続き学生表彰、梅野信吉賞の授与式があり学科斉唱後閉会した。
← 学生表彰

平成26年度入学式

学生支援センター

平成26年4月4日(金) 午前10時から「日本獣医生命科学大学入学式」がアリーナ(体育館)において、学校法人理事、日本医科大学関係者、母校名誉教授、同窓会役員、父母会役員など来賓出席のもと挙行された。

獣医学専攻博士課程2名、獣医保健看護学専攻博士前期課程7名、同後期課程2名、応用生命科学専攻博士前期課程12名、同後期課程1名、獣医学科96名、獣医保健看護学科103名、動物科学科101名、食品科学科88名、食品科学科修士編入生2名の合計414名が入学した。

新入生紹介に始まり、学長式辞、来賓祝辞

学術交流会を 獣医生命科学会に 改組して開催

日本獣医生命科学大学獣医学部長

新井 敏郎

本年度より「学術交流会」を改組し、「獣医生命科学会」を組織し学内の研究活性化を図ることになった。文部科学省の指導により大学はミッションの再定義を義務付けられ、各大学の特徴を社会に分かりやすく説明することが求められている。その中で教育、研究成果の可視化も求められている。その為に各大学は、特色あるシラバスの作成、教育技術の高度化の為の講習会開催や大学院学生、研究生等の研究発表の場としての学内学会の整備など工夫を凝らし対応している。

これまで本学では学術交流会が学生、卒業生、教員の研究を繋ぐ場として機能してきましたが、大学に主体性がないということで、文部科学省の求めるものとは若干趣を異にしていた。また、獣医学科では国際水準の獣医学教育の実施に向けた教育改善・充実のための作業が、コアカリキュラムの策定、研究教育体制の充実、分野別第三者評価の導入・実施、共用試験の導入実施、動物病院・実習環境の改善を5本柱として進められている。この作業の次の段階として国際化への対応と大学院研究の高度化が求められており、学内学会の設置は、研究体制の支援充実と考えると、その対応策の一つとなり得る。

国際化に向けて教育研究体制の改善が既に

進んでいる日本医科大学には医学会が設置され、学内の研究活動の充実に大きな力を発揮している。この医学会を範に本学にも「獣医生命科学会」を設置することになった。当面、池本学長を学会長として、その下に学会運営の為の事務局を置き、事務局長を獣医学部長が務める体制とした。第一回大会開催に向けては、獣医学部長を大会長として、獣医学部の川角浩講師が実行委員会責任者という立場で運営サポートする体制を整えた。学会事務局の仕事として、1学会の運営、2定年教員の最終講演会の開催、3学会誌の発行を予定している。学会機能が充実すれば、これまで以上に学科・学部間の共同研究が増え、トランスレーショナルリサーチの展開が進むと同時に、卒業生の生涯教育、研究の充実も図られると思われる。

皆様方には、学術交流会の改組、獣医生命科学会の設置についてご了承いただくと同時に、学会へのご支援、ご協力をお願いいたします。

第 1 回 獣医生命科学会

日時：平成26年11月9日（日）午前10時から
場所：日本獣医生命科学大学E棟内

予定されている企画

- シンポジウム
 - ・獣医学教育・研究の国際化への対応（国際シンポジウム）
 - ・獣医保健看護学科10周年特別シンポジウム
- 学科（分科会）主催企画
- 一般講演（ポスター）

一般講演申込み・資料請求・問い合わせ：平成26年7月30日以降に川角事務局長まで。個人への郵送での案内はいたしません、詳細については母校のウェブサイトを確認してください。

130周年記念合同教育棟が竣工

平成26年3月16日（日）に130周年記念合同教育棟の竣工式が執り行われた。この、合同教育棟の外観、施設の一部を写真で紹介する。各階の詳細は本会報14頁の「133年目の変革」（池本学長）をご参照下さい。



赫理事長の挨拶



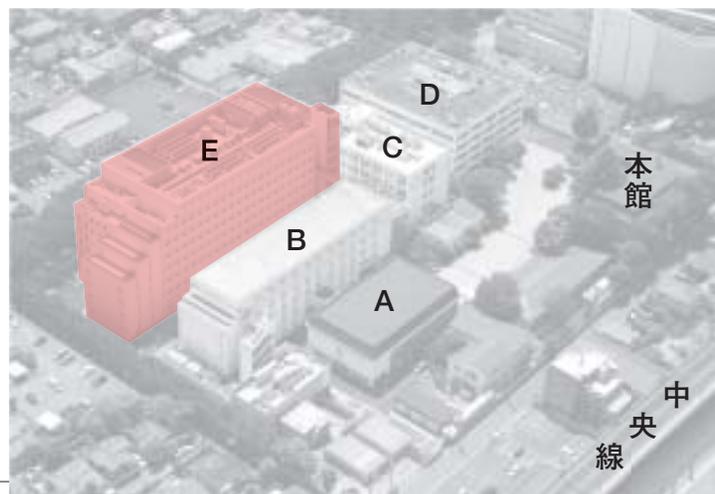
竣工式会場



母校空撮



←夜のE棟



- A棟：アリーナ、カフェテリア
- B棟：図書館、講義室
- C棟：動物医療センター
- D棟：獣医学科研究室・実習室
- E棟：合同教育棟



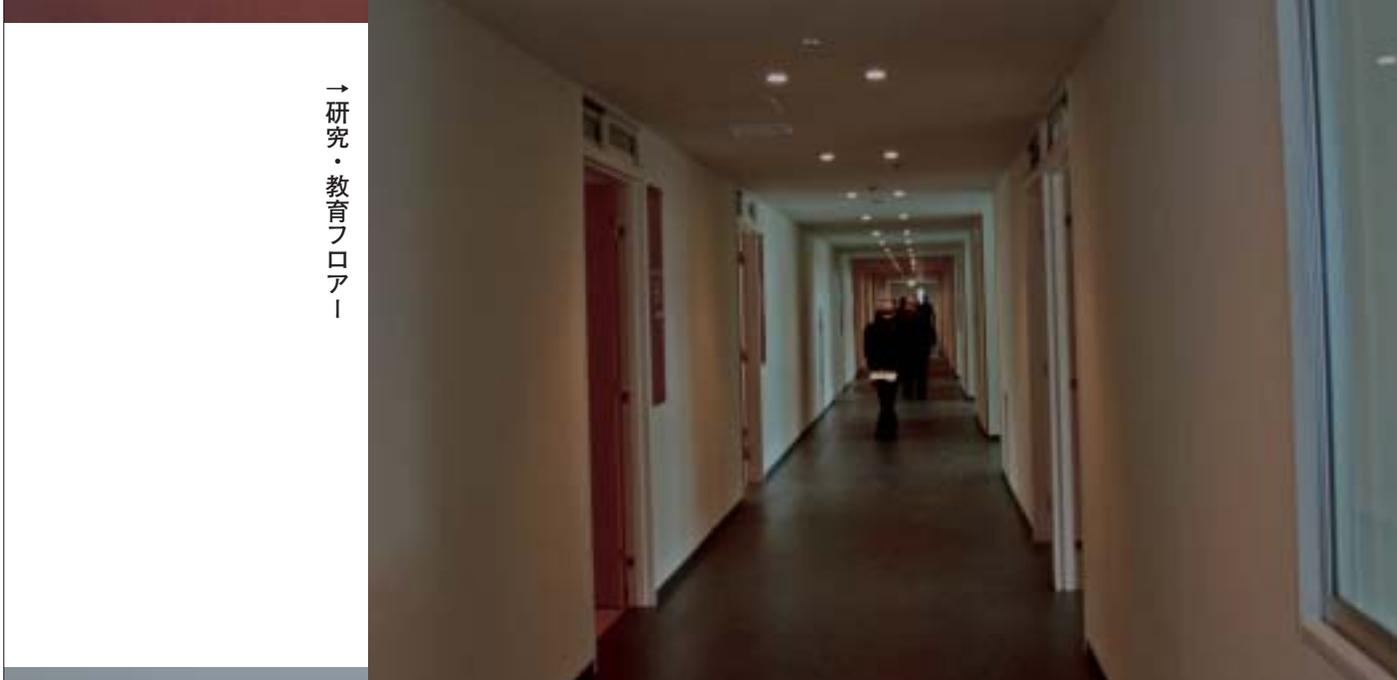
(13)

日本獣医生命科学大学同窓会報 第 45 号

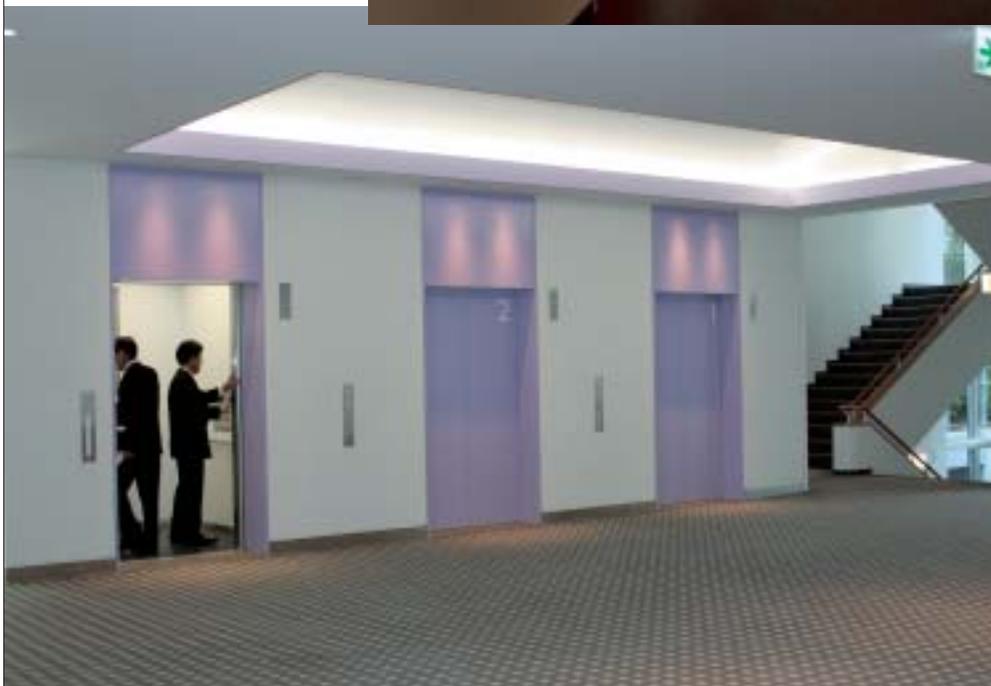
平成 26 年 7 月



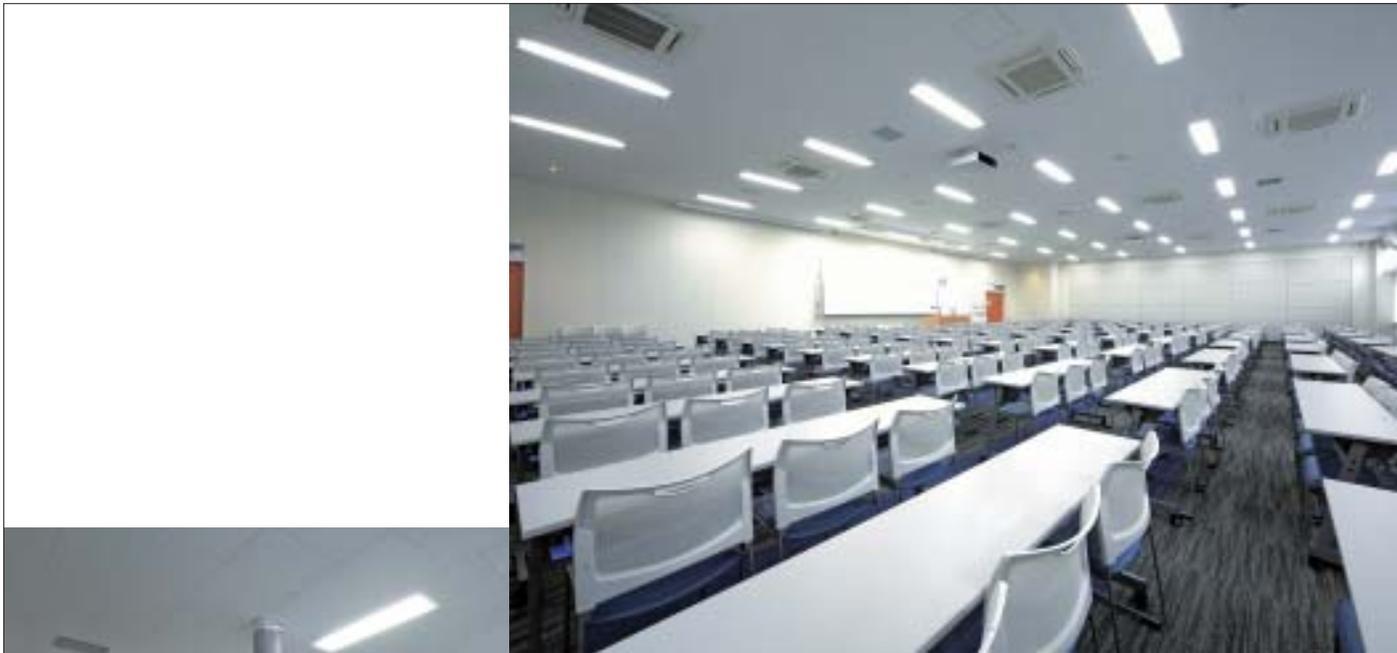
←ラウンジ



→研究・教育フロア



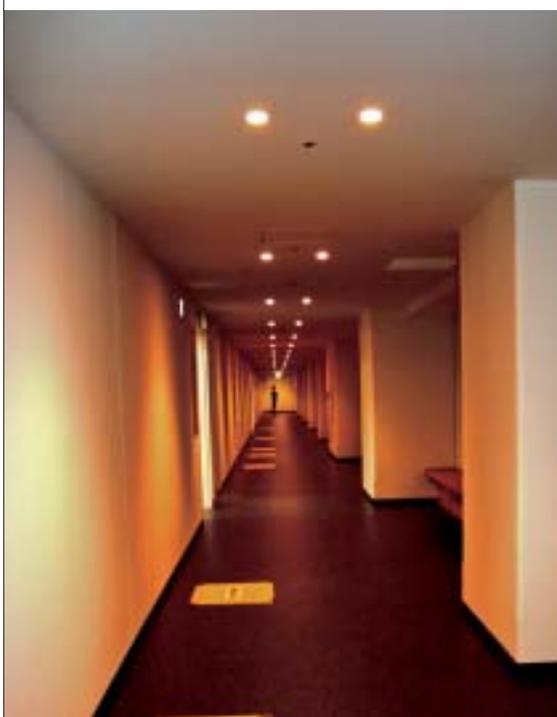
←エレベーターホール



講義室



研究室



← 地下一階中央通路



地下シャワー室

(15)

日本獣医生命科学大学同窓会報 第 45 号

平成 26 年 7 月

→ 武道場



← トレーニング室



→ 多目的フロア



133年目の変革

池本 卯典



同窓会の皆様、御元気の事と拝察致します。

母校、日本獣医生命科学大学は、133年目にして、大学史に新しい1頁を書き加えることになりました。それは、本年4月11日御案内のように新築された合同教育棟（E棟）に同一法人日本医科大学医学部基礎科学課程のフレッシュマン114名と教員17名、職員7名を迎え入れたことです。今のところ教育と事務機能は順調に展開しています。

ここでは、何故医学部の1年生を受入れることになったのか、その経緯と真相を皆様に御報告させていただきます。

●異学同棟

何故、医学部基礎科学課程が武蔵境に、その理由は、学校法人日本医科大学の社会貢献です。人口減の日本とはいえ、川崎市武蔵小杉・新丸子地区は人口激増地帯、早速の不足は初等教育施設です。財政不如意の川崎市は日本医科大学新丸子校舎に着目し、その借用を申し入れました。法人は熟慮の結果、川崎市

の要望に応えられたのです。一方、本学は耐震性が問題視されている獣医保健看護学科教育施設の改善及び4学科の教育・研究施設一元化などの要望を法人は受入れて頂き、同時に新丸子校舎の代替として医学部基礎科学課程の教育・研究施設を含めた合同教育棟（E棟）の建設を決定された結果によるものであります。

E棟、その配分概要は、地下1階は、体育施設・学生用諸施設・動物実験室など、1階は事務室・会議室・学生ホールなど、2階は日本医大基礎科学課程の講義室・実習室、3階は日本医大基礎科学課程の研究室・事務室など、4階は獣医学部獣医保健看護学科、5階は応用生命科学部動物科学科、6階は応用生命科学部食品科学科として完成し、それぞれ学科の教育・研究目的に相応しい構成により設計されました。7階は本学の全学科と医学部基礎科学課程の共通利用実習室として完成しました。

図書館、B棟の図書館施設を拡張して医学部基礎科学課程の図書を移転し、前図書館の隣接教室を図書閲覧室に改装することにより、機能的な図書館を再構築しました。どうか、同窓生の皆様も利用して下さい。

体育施設、東京大学農学部田無農場の一部分譲は、当時の小宮山総長に赫理事長と共にお願いに伺い進捗していましたが、価格問題を含め破談となりました。その対応としては、北総地区に本格的運動施設開発計画が決定し、すでに準備に入っています。完成までの間、現在、本学で実施している公的既設体育施設等の時間借用などを参考として、医学部基礎科学課程と協議し、短期、中期の計画

を策定します。

●教育再生

安倍政権の肝いりにより21世紀の日本に相応しい教育体制の構築を目的とした《教育再生実行会議》が発足し、昨年10月末に発表された最初の提言により、①現行の大学入試センター試験を改変し、成績を点数ではなく、上位から下位まで何段階かにランク分けをして表示する。②意欲や潜在能力を有する学生を入れるため、面接や課外活動、留学経験などにより人物本位の選抜に転換する。などを骨子とした提言であり、5～6年後の実施を目安としています。その提言に対して、人物本位の入試は《育ちの良さ》次第で決まる公算が強く、大学力は衰えるとした批判、また勉強こそ人間を作る基本、改革すべきは入試制度ではなく、教育内容である。とした識者の痛烈な批判も寄せられている昨今です。続いて、2次、3次の提言がありまして。しかし、直ちにそれを受入れ大学改革、学生力の強化策を実践することの難しさは否めません。

本学では2学部4学科共に平成27年度より教科構成すなわちカリキュラムの改変を行います。応用生命科学部の食品科学科が先駆け、動物科学科もそれに続き、21世紀対応型の教科編成に改革し、その実効性が期待されているところです。

獣医学部獣医保健看護学科は、未達である国家試験制度の獲得を前提とした統一試験に踏み出し、試験及び就業実態に即したカリキュラムを本学主導により編成して試行が始まっています。獣医学科は平成27年度から全学年実施となる待望の新カリキュラムを見据え

た講座の再編成に着手し、全国16獣医学科のモデルと評価されていると聞いています。その成果こそ大学の品格といえましょう。

●教育の語源は愛

日本の学校教育の強みは初等・中等教育の総合的な教育力といわれています。70年前、私の小学校時代は国民学校、中等教育時代は戦争中で勤労奉仕漬け。小学校では1人の担任に全教科を教えられました。先生方の顔は今でも鮮明に浮かびます。それが教育の原点なのだと思います。2年生担任の林先生は戦死をされました。優しく厳格な先生でした。6年生時代の福光先生は吉田松陰の現代師のような気がしてなりません。

日本の教師の象徴は吉田松陰。教師として最も大切な愛、子供の長所を引き出し、日本を変える原動力となる若者を育てられました。昨年末に発表された経済協力開発機構の学習達成調査（PISA）で日本は3分野でトップ水準。それはおそらく先生方の教育力ででしょうか。

大学の世界評価も近年の話題となつていますが、世界ランキングに日本では東大の30番がトップ、次いで京大、私学では慶応、早稲田が300番代、ランキングの主流はいずれも世界の大規模大学ばかりです。無数といわれる程多い世界の大学の中でこの評価は低くないとした識者の見解に、私は同感です。

さて、日本獣医生命科学大学の未来は、それは全教職員の双肩にかかる教育力と考えています。《教える》の語源は「愛しむ」と吉田松陰は語っています。同窓会の皆様本年も何卒よろしくご支援下さい。